

参加者 募集



まついしゅう
松井周の

いつの間にか 「演劇」になっている ワークショップ

日時 | 2025 年 **7** 月 **24** 日 (木)

18:45 ~ 20:45 (受付開始 18:30)

会場 | **岡山芸術創造劇場 ハレノワ 小劇場**

対象 | 高校生以上 (演劇経験不問)

定員 | 10 名程度 ※応募者多数の場合は締切後抽選

参加費 | 1,000 円

2024 年に上演したハレノワ発の演劇作品『終点 まさゆめ』で劇作・演出を手掛けた松井周氏を講師に迎え、ワークショップを開催します。

『終点 まさゆめ』最大の特徴である、即興の会話で進行する“会議”。

簡単なおしゃべりをしているうちにウソとホントが入り交じり、いつの間にか「演劇」になっている！？

そんな『終点 まさゆめ』の劇世界を体験できる新感覚の演劇ワークショップです。

新しい演劇の形に触れてみたい方は、ぜひお気軽にご参加ください。

作品本編の記録映像と創作過程を追ったドキュメンタリーの上映会も同日開催いたします。



photo: 平岩享

講師

まついしゅう
松井周

劇作家、演出家、俳優。東京都出身。1996 年、平田オリザ主宰の青年団に俳優として入団。2007 年に劇団「サンプル」を結成し、独立。2010 年 NY タイムズで「日本におけるもっとも重要な演出家の一人」と紹介された。2011 年『自慢の息子』で岸田國士戯曲賞受賞。作品が伊、仏、米、台湾、韓国で翻訳上演され、国内外で高い評価を受けている。また NHK が立ち上げた脚本開発特化チーム＜WDR＞のメンバーに選ばれ、NHK 土曜ドラマ『3000 万』の脚本を手掛ける。2020 年より「演劇」を通じて世の中に思いをめぐらそうと立ち上げたスタディ・グループ、「松井周の標本室」を運営している。

申込方法

申込期間 | 6 月 1 日 (日) ~ 6 月 30 日 (月) *オンラインは 23:59 まで、FAX は必着

下記いずれかの方法でお申込みください。

①オンライン

右記二次元コードより



②FAX

裏面の申込用紙をご記入のうえ 086-201-8004 まで

●参加可否については、締切後にメールまたはお電話にて 7 月 14 日 (月) までにご連絡いたします。

workshop@okayama-pat.jp からのメールを受け取れるように設定してください。

お問合せ先



岡山芸術創造劇場 ハレノワ

「ハレルワークショップ」係
TEL 086-201-8014 FAX 086-201-8004
MAIL workshop@okayama-pat.jp

FAX 申込用紙

ふりがな	性別
氏名	年齢
TEL ※当日連絡の取れる番号をご記入ください。	職業
MAIL	
住所 〒	
応募動機 ※演劇経験のある方は、内容をご記入ください。 ----- ----- -----	

※ご記入いただいた個人情報は、(公財)岡山文化芸術創造が責任を持って管理いたします。また、本ワークショップ及び今後の事業の案内以外には使用しません。

関連企画『終点 まさゆめ』上映&トーク

日時 | 2025 年 7 月 24 日 (木) 13:00 開場
会場 | 岡山芸術創造劇場 ハレノワ 小劇場
参加費 | 無料 (要参加申込)

【タイムテーブル】
13:30 ~ 15:00 [第 1 部] 本編映像上映
15:00 ~ 15:30 [トーク] 松井周 & 菅原直樹
15:40 ~ 17:20 [第 2 部] ドキュメンタリー映像上映
*トークまたは第 2 部からの入場可

申込はこちらから▶



劇作家・松井周氏によって高齢者演劇集団さいたまゴールド・シアターに書き下ろされ、2010 年に故・蜷川幸雄氏演出により初演された『聖地』。10 年以上の時を経て、介護 × 演劇の第一人者でもある菅原直樹氏が演出協力・出演として新たに加わり、アドリブの会議で進行する新形式の演劇作品『終点 まさゆめ』が誕生した。

【あらすじ】
少し先の未来。ちょうどいいサイズの欲望をちょうどよく叶えてくれる惑星「まさゆめ」。そこで人生最後の日々を過ごそうとするために、宇宙船に乗り込んだ 7 人の高齢な乗客たち。突然のハプニングにより宇宙船はそのままと「まさゆめ」に辿り着けない。そこで船長の提案により、乗客 1 人を船から降ろすことになった。どうやら乗客同士の会議で決めるという。
人生の終盤に入った彼らにとってこの会議はどのような意味を持つのか？
儀式のように始まるこの再現劇は、一体どこにたどり着くのか？

【作・演出】松井周
【演出協力】菅原直樹
【キャスト】
久保井研、菅原直樹、申瑞季、篠崎大悟、荒木知佳
[オーディションキャスト] 石川佳代、井上洋子、今栄敬子、小川隆正、竹居正武、山田浩司



撮影：富岡菜々子